



日刊動労千葉

国鉄千葉動力車労働組合

〒260 千葉市中央区要町2番8号 (動力車会館)

電話 (鉄電) 千葉 2935・2939 番

(公) 043 (222) 7207 番

97.2.5 No. 4541

退区25秒前から点呼!?

撤回かちとる!

動労千葉申第10号 (申入書) に対する回答及び見解

- 1 幕張電車区の終了点呼について、「16時59分35秒から開始する」とした根拠について明らかにすること。
- 2 終了点呼に要する時間が25秒以下であるとするならば、終了点呼の位置づけはいかなるものと考えているのか、見解を明らかにすること。
- 3 幕張電車区の終了点呼開始時間を、必要な事項の伝達等について対応できる時間に変更すること。

終了点呼については、「仕事のけじめ」及び「必要な事項の伝達」のために行っているものである。なお、幕張電車区においては、16時57分の予鈴をもって点呼場に集合し、全員が集合したことを確認した後に点呼を開始しており、これは従前と変わるものではない。

また、終鈴の鳴動開始時期については、これまでも「チャイムを合図に挨拶すると終了点呼が一部時間外にかかる」等の社員の意見があったため、会社としても秒単位の議論を好むものではないが、チャイムの鳴動終了を17時に変更したものである。

なお、この度、現場で16時59分35秒から終了点呼を開始するというような誤解を生じたことを踏まえ、今後は伝達事項等の終わった段階で点呼を終了し、日勤勤務者(長日勤を除く)の勤務終了のチャイムについては、17時をもって鳴動を開始させることとする。

一月三〇日、幕張電車区の終了点呼に関する団体交渉が行なわれた。千葉支社は、この団交において、終了点呼のあり方に問題があったことを認め、従来どおりの点呼時間に戻すとの回答を行なった。

点呼問題とは?

幕張電車区当局は、昨年十一月、終了点呼を、一六時五九分三五秒前から開始するよう、一方的に変更した。一体何のためか?。終了点呼の開始時刻を退区の二五秒前とすることに何ひとつ積極的な意味などあるはず

はない。結局、区当局の発想は「一秒たりとも自由にはさせない」というだけであった。しかし、終了点呼に要する時間が二五秒以下でしかないとするならば、一体何のための点呼なのか、点呼とは一体何なのか、という根本問題が問われることになる。実際、必要な事項が全く伝達されないなど、混乱も生じてきた。区当局は、皆が集まらなくても、秒単位で時計とにらめっこをしたまま点呼を始めようしないのだ。しかも点呼は、二五秒間のチャイムが鳴っているなかでの点呼であり、何か言っても聞こえる状態ではない。

当然現場では次々に疑問がだされたが、区当局は終了点呼時間を変更した理由を一切説明することなく、「決めた事に従え」という対応を続けた。動労千葉としても、様々な場で千葉支社に改善を求めたが、このような状態が放置され続けたため、一月十四日に申し入れの提出に至ったものである。

問題は経営姿勢

文書での回答(別掲)は、責任を逃れようとして、「誤解を生じた」とか「社員の意見があ

ったため」とか、ごまかしの言葉を連ねているが、交渉のなかでは、「問題があった」ことを認め、二月三日から従来の点呼時間に戻すことが確認された。しかし、このようなレベルの問題が次々と発生し、しかも申し入れを出すまで解決に至らない状況そのものが、現在のJRの歪みきった姿を示していると言う他ない。JR発足後の十年間の経営姿勢、異常な労務政策こそが、このような完全にパランス感覚を失った管理者を生み出したのである。

安保・沖縄―国鉄闘争勝利へ 疾風怒濤の九七年を闘おう!

―全国労組交流センター第四回総会(2/15)―

二月一日・二日、静岡県熱海市において、全国労組交流センター第四回総会が開かれ、昨年十一月一〇集会の成功を確認するとともに、第三次安保・沖縄闘争と国鉄闘争の勝利をかちとり、労働運動の新たな潮流をめざして疾風怒濤の九七年を闘いぬく方針が決定された。

総会では、「明治維新」「敗戦」につぐ三番目の変革期に入る中で政治、経済、行政も含めて全ての枠組みが根底から崩壊し始め、今までの支配のやりかたがでなくなってきた資本主義が、その生き残りをかけて安保共同宣言や行革攻撃をかけようとしている情勢の中で、この攻撃に対して「闘う労働運動の新しい潮流」の旗のもと、第三次安保・沖縄闘争の本格的爆発をかちとるとともに、国鉄闘争の勝利が労働運動全体の命運を決する「死活的」闘いという立場に立ちきり、JR総連革マルのファシスト労働運動を粉碎・一掃することに討論が集中した。

橋本政権の安保・行革攻撃を打ち破る労働運動の新たな潮流の形成をめざし、動労千葉も全力で闘おう。